

# 新版色道大鏡

内容見本

2006年5月刊行予定

予価二〇、七九〇円

(本体予価一九、八〇〇円+税5%)

A5判・上製本・カバー装・680頁(予定)

新版色道大鏡刊行会

大橋正叔・沖森卓也・倉島利仁

伴野英一・渡辺憲司 代表

第一冊 大鏡

いふ。又此けちといふを奇怪の事にとりなし、彗星とはいへり。  
太鼓 太鼓持の下畧なり。太鼓持といふは、傾城買の客に付従ふ者をいふ。此名目のおこりは、紀州雜賀跳より  
はじまる。鐘をもちたる者は首にかけてをどる、其中にかねをもたぬ者に、太鼓をもたするなり。是によつて、此名  
目とす。  
行證人 むかしの太鼓持の名なり。

あかば 同、むかしの太鼓持の名なり。(二十一オ)

おひや 同、むかしの太鼓持の名なり。

跡付 同、太鼓持の事なり。されども、おほくはとなへぬ名目なり。本客のあとにつくといへる心なるべきか。

此名、太鼓持にはおもはしからず、元是哥舞妓若衆に付來る役者をいひたりしなり。今いはゞ、太夫のつれありく付  
物などをいふべき事也。

杵持 杵とばかりもいふ。同、太鼓持の事なり。是江戸によくいひ馴たる名目なり。

惟光 同、太鼓持の事也。惟光は源氏の君の心(二十一ウ)しりにて、常に付したがひ奉りし心なるべし。筑紫かた  
にいひ馴て、上方筋にはこれをもちいす。

ぶんせき 同、太鼓持の事也。慶安の比、大坂邊にていひならはせし名目なり。太鼓は、本客を賞する故に、同  
座せず、席を分て候する心にて、分席と書といへど、信用しがたし。或人云、汝、太鼓のぶんせきとして、過言は  
無用なりと制したるより、ふと云ならはせし詞なりともいふ。(二十一オ)

末社 同、太鼓持の事也。傾城買の客を本社にたとへ、太鼓を末社に比したる分なり。

本文見本組(95%縮小)

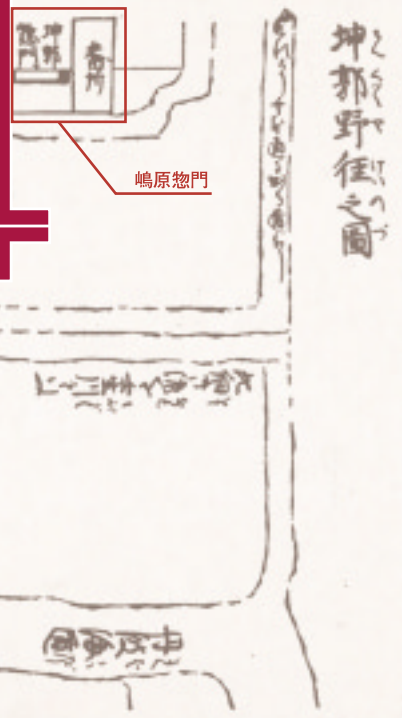
巻12「遊廓図」より「坤郭野徑之圖」(京嶋原の入口、図版右上「坤郭惣門」)

諸廓の地理、歴史、風俗、故実を探り、  
近世の新しい人間精神をもって  
色道百科の体系を記述した奇書の新翻刻

新版色道大鏡刊行会編

# 新版色道大鏡

内容見本



藤本箕山が生涯をかけた

人間探求の名著

It is superior reprint which was written about erotic love systematically from a viewpoint of human being mind of modern times by examining geography, the history, manners, customs and a historical fact about Kuruwa.



八木書店

発行

八木書店 出版部

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8  
TEL : 03-3291-2961(営業) FAX : 03-3291-2962  
03-3291-2969(編集)  
E-mail : pub@books-yagi.co.jp  
Web : http://www.books-yagi.co.jp オンライン書店など情報満載

取扱店



# 刊行にあたって

藤本箕山著『新色道大鏡』（十八巻十四冊）を刊行することとなった。故野間光辰氏が、完本の発見によって既発表の「藤本箕山の生涯」を解説とし、補記および主要語彙索引を加えて、『新色道大鏡』を刊行されたのは昭和三十六年であった。その後、八木書店が野間氏の「一、書誌、二、校勘記、三、作者小伝」を新解説とし、影印版『色道大鏡上中下』を出版したのが昭和四十九年であった。爾来、近世前期の遊里百科辞書といふべきこの書は、近世の文学・歴史・風俗を研究する者にとっては必備の文献でありながら、早く品切れとなり、後進の研究者には容易に購入できない古書価となる。生前、野間氏はこうした

状況や誤植を気にかげられ、改訂版の刊行を望まれていた、と聞く。同氏没後に改訂版の出版が一、二の出版社で計画されたが、種々の事情で実現には至らなかった。しかし、この度、影印版の版元八木書店の熱意によって、諸般の準備も整い、刊行の運びとなる。その原動力は、立教大学渡辺憲司氏のもとでの沖森卓也氏も加わった、同書の輪読会に参加した若手研究者の再版への強い要望である。前書では組版上影印版となった遊廓図・道統譜も翻刻し、人名索引と遊里語・近世語彙を含む事項索引を付し、用字にも配慮した、乞うご期待の新版である。（大橋正叔）

# 新版色道大鏡刊行会

## 目次

色道大鏡叙	巻十二 遊廓図上初翻刻
凡例	巻十三 遊廓図下初翻刻
巻一 名目鈔	巻十四 雑女部
巻二 寛文格	巻十五 雑談部
巻三 寛文式上	巻十六 道統部初翻刻
巻四 寛文式下	巻十七 扶桑烈女伝
巻五 廿八品	巻十八 無礼講式 諫言篇
巻六 心中部	
巻七 翫器部	索引・沖森卓也監修
巻八 音曲部	解題・大橋正叔・渡辺憲司
巻九 文章部	校訂注・伴野英一
巻十 定紋部	
巻十一 人名部	

## 本書の特色

**底本** 京都大学大学院文学研究科文学部図書館所蔵本全18巻14冊を新たに全て翻刻した。  
**翻刻** 右底本の影印本である八木書店版『色道大鏡』を作業底本として、原本と校合の上厳密を期し、巻末に校訂注を付した。  
**用字** 新字旧字を問わず、通行の字体の中で可能な限り原本通りの字体を採ることとし、通行の字体のないものは新たに作字した。  
**墨朱** 原本上の朱点などは、適宜注記した。  
**新機軸** 『新色道大鏡』において未翻刻であった巻12・13の「遊廓図 上下」及び巻16の「道統譜」を、本書では全て翻刻した。定紋などは原本通りの図版を収載した。  
**索引** 人名索引はもとより近世語彙研究の利用に配慮した事項索引を附した。

### 本書に掲載された遊廓図の所在地

京嶋原・山城国伏見夷町・山城国伏見柳町・近江国大津馬場町・駿河国府中 嶋・武蔵国江戸三谷・越前国敦賀六軒町・越前国三国松下・大和国奈良木辻・鳴川・大和小網村新屋敷・和泉国堺北高洲町・和泉国堺津守南高洲町・摂津国大坂瓢箪町・摂津国兵庫磯町・佐渡国鮎川山崎町・石見国塩津津荷町・播磨国室津小野町・備後国 鞆 有磯町・安芸国広島多々海・安芸国宮嶋新町・長門国下関稲荷町・筑前国博多柳町・肥前国長崎丸山町・寄合町・肥前国樺島・薩摩国山鹿野

## 初翻刻部分の見本組 遊廓(中村又十郎家)の所在地とその抱えの遊女系譜

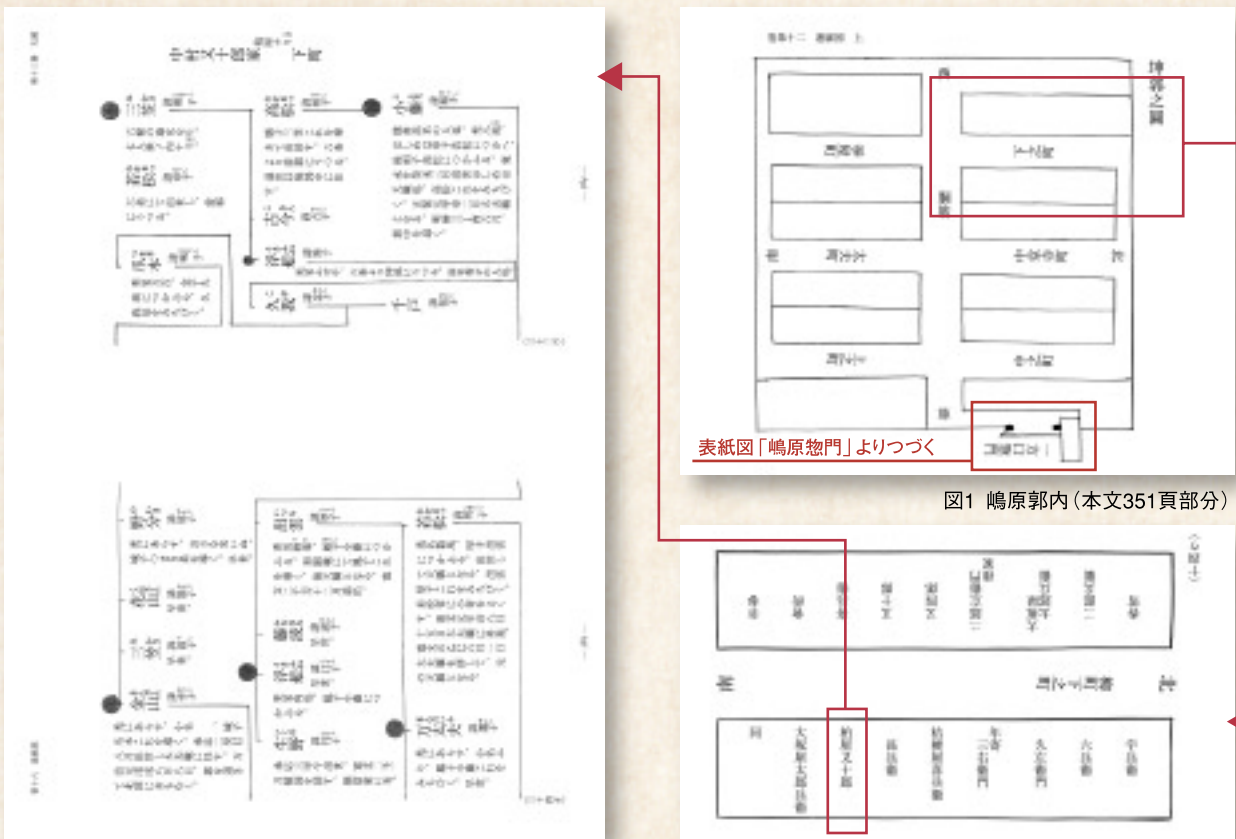


図1 嶋原郭内(本文351頁部分)

図2 中村(柏屋)又十郎家の位置(本文353頁部分)

図3 中村又十郎家の遊女系譜

# 綿密な校訂と細密な索引を付した幻の書の復刊

福岡大学教授 中野三敏

野間先生の『新色道大鏡』が三百部限定で刊行されたのを暉峻研究室の机上に見たのは、昭和三十六年の冬だった。昭和十六年に初めてその存在を報告されたこの完本は、爾来二十年、まさしく名のみことごとしく、学会に待望されながらも殆んど眼にすることの叶わなかった幻の書ではあった。その後、影印本の刊行も果たされたものの、文字通り空前絶後、他に全く類書を見出し得ない内容と共に、十八巻という大部の書冊は、恐らく近世関係の諸書の中でも、群を抜いて高価な一本であったこと、衆知の事柄である。今回の新版はより綿密な校訂と細密な索引に加えて、古書市価の殆んど五分の一という廉価を

実現するという。何よりの朗報と言わざるを得ない。翻って近年、近世の文化全般に涉り、従来の近代主義的評価に見直しを迫る気運は著しい。その時、極めて強力な指標の一つとなるのが本書である事は、どれほど強調してもし過ぎることはない。近世人にとって「遊興」もまた一つの確かな「道」であることを本書ほど確信をもって説破する書物は他にあり得ないからである。新しい近世理解を志す学徒の一人一人が、まずは本書を熟読玩味せられんことを願ってやまない。